幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局　橋本守行
電話090-7746-8689

第　４０号
令和　５年　１月　１日

新一乗谷史跡博物館などを見学

幸若歴史愛好会

幸若歴史愛好会の一一月例会は、同二五日町図書館を離れて、新規開館したばかりの一乗谷博物館などを、青木豊昭講師の案内により見学しました。会員一七名が、会員の車に分乗して午後現地に向かいました。

はじめに、博物館内に設置された戦国城下町の模型や原寸大に再現された邸宅などの説明を福井市語り部から説明を受けました。

その後、戦国大名・朝倉氏の栄華を彷彿させる発掘された屋敷跡や庭園などを見て回りました。天候にも恵まれて有意義な視察行でした。

みやま市大頭流幸若舞視察参加者募集！

コロナ禍により中止が続いていましたが、今回は下記のように企画しました。多数の参加者を募集します。

実施期日：令和５年１月１９日～２１日
１月１９日８時１２分JR鯖江駅発、１月２１日１８時５８分JR鯖江駅着
参加者負担金：３万円程度　　申し込み締め切り：１月１０日
申し込み等詳細連絡先：橋本会員、０９０－７７４６－８６８９

＊恒例の新年会は、本年は諸般の事情により中止します。

例会は隔月（偶数月）第2金曜日です

朝日地区総合文化祭で幸若舞をPR

さる一〇月二九日～三〇日に、町生涯学習センターで朝日地区総合文化祭が開催されました。各種芸能が発表されるとともに、絵画や写真、書などが展示されました。

本会では、同センターロビーを利用して、幸若舞紹介ＤＶＤの上映、かわら版による本会の活動状況、復元された幸若八郎九郎家の建築模型など展示するとともに、リーフレットを配布して幸若舞をアピールしました。

当面の主な予定

１月　４日（水）　福井銀行朝日支店街角美術館（～１月３１日）

１月１９日（木）　福岡県みやま市大頭流幸若舞奉納視察（～１月２１日）
１月２１日（土）　福岡県みやま市児童交流会
１月２７日（金）　幸若歴史愛好会
２月２４日（金）　幸若歴史愛好会
３月　４日（土）　堀大介・佛教大学教授（元町学芸員）受賞記念講演会
（於・越前町生涯学習センター）

お詫びと訂正

前号（第３９号）４面の幸若歴史研究会の記事中誤りがあり、お詫び申し上げます。⑦項目を次のように差し替えをお願いします。

⑦１５６６年義景は、のちの将軍・足利義昭を一乗谷に迎えて十七献の宴をはったが、朝倉義景およびその家臣たちが手猿楽（てさるがく・セミプロ）の舞を披露した。その後、義昭の所望に応じて、義景がさらに舞を舞ったが、その舞が幸若舞でないかというのが青木説である。

朝日小・中学校で出前授業
幸若舞を紹介

さる一二月五日、朝日小学校六年生六二名を対象に、「伝統芸能に親しむ学習」として多目的ホールで幸若舞を紹介しました。まず、現代幸若舞の町芸能祭出演のＤＶＤ（敦盛）を上映、その後実際の舞衣裳を希望する生徒にまとってもらい、舞の気分を味わいました。さらに、最近制作した幸若舞紙芝居続編を、大画面モニターも併用しながら、青山・月田両会員が上演して、幸若舞の盛衰を説明しました。

また一二月七日、今度は朝日中学校二年生一〇七名を対象として、ランチルームで幸若舞を紹介しました。まず、配布したリーフレットを参照しながら、幸若舞の概要について説明しました。その後、同中学校に在籍する女子二人により現代幸若舞「左内」を実演しました。さらに、幸若舞の衣裳を参加した中学生にまとってもらい、気分を味わうとともに、松田会員より、基本的所作の指導を受けました。

今後とも、児童生徒の町内の伝統芸能への理解が深まるようご協力をお願いします。

打波名誉顧問、澤崎会長、山口顧問ご逝去

打波六兵衛氏

本会の名誉顧問打波六兵衛氏と会長・澤崎博氏、顧問山口信嗣氏が昨年一一～一二月相次いで他界されました。

三氏はそれぞれ八八歳と八九歳、九二歳で物心両面で幸若舞の振興と本会の発展に尽くして頂きました。ここに改めて三氏のご功績に感謝するとともに、ご冥福をお祈りいたします。

打波氏は幸若一族の流れをくむ打波家の当主として、旧朝日町に生まれ、昭和三五年金沢大学医学部を卒業後、同大学病院や福井県立病院を経て昭和五三年福井市に打波外科胃腸科を開業されました。

同氏は、医療法人名に「幸若」を使用するなど、同夫人ともに関心が深く、当会の前身である「幸若会」の時代から、資金的な面で援助をいただきました。晩年は療養生活が続き、若いころから親しんだピアノ演奏を楽しまれました。

澤崎　博　氏

澤崎氏は、社会教育行政を重視する当時の町長に請われて、この分野の職員として採用されました。

その後は、幸若舞をはじめとする各種文化団体などの育成や、旧朝日町立図書館（幸若文化情報センター）の整備に尽力され、その館長も務められました。

その後も、山口顧問ともに幸若舞振興に努力され、それまでの幸若会を発展させた本会「幸若舞の里づくり会」の発足に取り組まれ、本年令和四年会長に就任されたばかりでした。また幸若紙芝居続編の制作にも関わられました。

生前の会長からは、①新規会員の増強　②壮年会・レディース会などとの連携　③夏祭りへの踊り参加　④幸若を町の文化活動のブランドする　⑤足腰強化のため一口一万円の賛助会員を設けるなどの構想が示されております。

山口　信嗣　氏

山口氏は、県立武生高校教諭時代から、郷土の歴史や地理、とりわけ旧朝日町の研究に取り組まれ、昭和五四年には、㈱国書刊行会より写真集・鯖江を刊行されました。

教諭退職後は、編集室長として町誌の編纂に取り組まれ、特に幸若舞の研究成果については、平成一五年に刊行された朝日町誌通史編に収録されています。

また、「幸若大好き人」として、地域グループ「幸若会」の支援を続けていただくとともに幸若歴史講座を主宰していただきました。

そして平成二八年度福井県文化功労賞を受賞され、同二九年には「越前幸若舞を知る一〇〇項」を町教育委員会から出版されましたが、本書は一般町民が幸若舞を理解するための基本的なテキストとして必読書となっております。